

V. 特記事項

1. 長崎短期大学の茶道教育

- 本学は、建学の精神に基づき地域に貢献する「心豊かな人間力」を有した人材を育成するために茶道教育を取り入れている。「茶道文化」は建学の精神を具現化した教養科目であり、2年間の必修科目として全60回を開講している。
- 茶道を通じて、点前（てまえ）と共に、日本の伝統文化への理解を深め、礼儀作法や心の豊かさ、コミュニケーション能力等を養うことを目的としており、単なる技術習得ではなく人間教育の一環として茶道教育に取り組んでいる。
- 授業では、実際に点前を学ぶ実技に加え、茶道の歴史・道具・精神等についての座学も行っている。また、学生を6人程度の少人数グループに編成し、週に平均15コマ（クラス）を開講している。授業には、茶道文化専任の教職員に加え、他の教職員がTA(Teaching Assistant)として参画している。
- 毎年「茶道大会」等を開催し、茶道教育の学修の成果を学内外に公開している。
- 茶道教育を通して学生の社会性や協調性を育み、授業時に所属学科・コース以外の教職員と学生とのコミュニケーションの機会も増えるため、学科・コース・専攻科を越えた教職員間の学生理解、学生支援にも繋がっている。

2. 長崎短期大学における四学期制（クォーター制）

- 本学は、平成27(2015)年に文部科学省「大学教育再生加速プログラム(AP)」に採択され、その取組の一環として、平成28(2016)年度よりクォーター制を導入した。導入当初は、国際コミュニケーション学科（現・地域共生学科国際コミュニケーションコース）のみにおいて試行されたが、その後、他の学科・コース・専攻科においても段階的に導入が進められ、令和6(2024)年度には、一部の科目を除き全学科・コース・専攻科においてクォーター制を実施している。
- クォーター制導入による主な利点として、従来の2学期制（セメスター制）における週1回・全15回の授業形式に比し、週2回の授業実施が可能となるため、学生がより集中的に学修に取り組むことができる。
- 特に実技系科目においては、知識や技能の定着に資する効果が期待できる。また、科目開講時期の柔軟な設定が可能となることから、長期インターンシップ制度の導入など、多様な学修機会の確保にもつながっている。
- 前期・後期をさらに二つに分割することにより、各クォーター終了直後に次のクォーターが開始されるため、学生の意識の切り替え、補講・試験日程の調整、学生の欠席回数管理（配慮）等が難しい面も見られる。
- 今後も、クォーター制の効果と課題について精査し、さらに学生等の要望等を踏まえながら改善を行い、本学での学びの質を高めることを目指す。